

# アルジェリア核実験被害者国際会議 参加報告会

～ サハラの内核実験ヒバクシャ:核実験、現在、そして今後～

今年2月、1960年代にフランスが核実験を行なったアルジェリアで、初めての核実験被害者の国際会議が開かれました。原水爆禁止日本国民会議(原水禁)は会議主催者の要請を受け、被爆者の坪井直さん(広島)、被曝問題専門家の振津かつみ医師、内の核政策や日本内外のヒバクシャ問題にも詳しい真下俊樹さん(通訳兼)の3名の参加の実現に協力しました。

今回の会議はアルジェリア政府(ムジャヒディン省)主催で開かれ、会議の参加者やマスコミに対して初めて核実験場も公開されました。また、会議では提言も採択され、核実験被害者の証言や資料の収集、被害の状況把握、援護など今後必要とされる対策を進める上で貴重な成果を残したと言えます。

今回は、会議に参加された振津さん、真下さんのお二人をお招きし、現地で撮影したビデオを観ながら、会議の様相やアルジェリアの現状などを報告して頂きます。



国際会議へは、日本やフランス、オーストラリアなど各国の専門家や報道関係者が参加。フランスが1960年代に核実験を行った実験場跡は、場所によってバックグラウンドの2000倍もの放射線が計測された。

**日時：3月29日(木) 18:30～20:30**

**場所：総評会館501会議室**

〒101-0062 千代田区神田駿河台3-2-11 総評会館5階

(地下鉄千代田線「新御茶ノ水」下車1分、丸の内線「淡路町」新宿線「小川町」下車5分、JR「御茶ノ水」下車10分)

**主催：原水爆禁止日本国民会議 (03-5289-8224 金生・野川)**

講師略歴：

**真下俊樹さん** 神戸市外国語大学講師

75年から「東大自主講座」「原爆体験を伝える会」に参加。78年「市民エネルギー研究所」の設立に参加。東大文学部卒業後、83～87年滞仏。パリのフランス国立社会科学高等研究院(EHESS)で開発経済・インフォーマル経済を専攻。同時にヨーロッパ各国のエコロジー・オルタナティブ活動家、緑の党と交流。ヨーロッパの緑の政策を研究。著書に『2010年日本エネルギー計画』(共著、ダイヤモンド社)。訳書にB.デルブーシュ『世界の食糧・農業』(農文協)『シリーズ・東欧革命』(共訳、緑風出版)など。

**振津かつみさん** 内科医師

内科医師。原爆被爆者の健康管理、チェルノブイリ原発事故被災者への支援活動、また世界の核被害者＝ヒバクシャとの連帯した活動などを通じて、放射線の健康影響について学ぶ。「ウラン兵器禁止を求める国際連合」ICBUW評議員。「チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西」事務局。兵庫医科大学・遺伝学(放射線基礎医学)、非常勤講師。